

近江上布

愛荘町に受け継がれてきた伝統織物「近江上布」。その技と文化は、今、国境や世代をこえて広がりを見せています。

— 世界と子どもたちをつなぐ、愛荘町の宝 —

世界が注目する 近江上布の技と精神

昨年、近江上布伝統産業会館に台湾とフランスからお客様が来館されました。

台湾から訪れたのは、先住民アミ族の皆さん。途絶えつつある自らの織文化を復活させたい、日本の織物から学びたいという思いで来日されました。植物の栽培から糸づくり、機織りまでを手作業で行うアミ族の織物は、近江上布と多くの共通点があります。

一方、フランスからは、日本のテキスタイル専門店のオーナーが来館し、海外向けツアーの視察として近江上布の工程や美しさに深く感動されていました。

子どもたちが会う 「本物の近江上布」

秦荘東小学校では、職人による近江上布の授業が実施され、糸づくりや機織りの実演を通して、子どもたちは本物の技と、伝統を受け継ぐ思いに触れました。

近江上布が「経済産業大臣が指定する伝統的工芸品」であることを知ると、子どもたちから驚きの声が上がりました。

また、愛知川小学校では、国語科「たぬきの糸車」の学習に合わせて、糸車の体験が行われました。近江上布の職人さんから糸づくりの方法や糸車の仕組みを教わり、実際に大きな糸車を回して糸を紡ぐことに挑戦しました。

近江上布がつなぐ、未来へ

世界から注目され、子どもたちの学びの中で息づく近江上布。それは、人の思いと時間を紡いできた愛荘町の誇りです。この町に根づく伝統が、これからも世代をこえ、国境をこえて受け継がれていくことが期待されます。

あなたも**体験**しませんか？

体験の詳細はこちらから▶

☎ 近江上布伝統産業会館 ☎0749-42-3246



台湾

▼機織りを職人から教わる参加者



▲機織りでコースターづくり



◀完成した作品に思わず笑顔

フランス



▲糸の作り方を教わる参加者



▲真剣な眼差しで機織りを体験

子どもたち



▲近江上布の手触りを確かめる児童



▲糸車を回す体験

わたしのギャラリー



愛知川小学校6年
青木 崇真さん



この作品のテーマは自然です。一つの大きな花を中心に植物が飛び出していくように工夫しました。周りの動植物にぜひ着目してください。



愛知川小学校6年
森崎 心春さん



私が一番がんばったのは、木の葉っぱの様々な柄を描くことです。葉っぱの形を描くのが難しかったけど、うまく描けてうれしかったです。



秦荘西小学校1年
安藤 丈翔さん



タイコウチのはさみのところをくふうしました。サカナをつかまえているようにしています。かみいっぱいにかきました。



少年センターだより

心の回復する力

こんにちは。臨床心理士の小泉です。愛荘町少年センターで毎月第3火曜日に愛荘町役場で児童青年期のお子さんや保護者の方々の相談を承っています。面談予約が入っていない日は、愛荘町の幼稚園や小中高校に赴き、お子さんや先生方のサポートをさせていただきます。

このお便りが皆さんのお手元に届くのは学年末～新学期にかけてのことで、今回は皆さんに“レジリエンス”という概念についてお話したいと思います。

レジリエンスという単語は様々な分野で用いられていますが、わかりやすく表現すると、「跳ね返す力」「回復する力」「状況の変化に応じて適応していく力」と言えるでしょう。ボールを手で押すと少しへこみますが、元の丸い形に戻ろうとします。そのように外から加わった力を跳ね返そうとする力をレジリエンスといいます。私たちの心もボールと同じようにレジリエンスを備えています。環境の変化や外からの圧力でスト

レスがかかっても、少しのストレスはボールのように跳ね返すことができます。

しかし、とても大きなストレスがかかったり、長期にわたり心の栄養を補充できなかつたりすると、メンテナンスをされずに使用され続けている空気の抜けたボールのように心も元気がなくなってしまいます。

できればこの春休み中に、ボールに空気を入れてメンテナンスするように、心にたくさんの栄養を与えていただければと思います。心が元気になる方法は人によってそれぞれ異なりますが、よく寝る、好きな事をする、おいしいものを食べる、体を動かす、楽しい事をするなど共通している点もいくつかあります。良かったら色々試して、自分にとって一番の心の栄養補給を見つけてみてください。

次回は、レジリエンスを高める方法についていくつかお話できればと思っています。

愛荘町少年センター 小泉臨床心理士

☎ 愛荘町少年センター ☎0749-42-8018